

『NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会』は、7月11日より『一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク』として活動してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO

“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



糖尿病患者さんと医療関係者との 関わりをもう一度考えてみる

【本法人評議員】

青梅市立総合病院

関口 芳弘 [医師]

2型糖尿病は生活習慣病の代表選手といえます。生活習慣の改善無くしてはどんな薬剤を使おうとも血糖コントロールを安定させることは不可能です。生活習慣改善の基本は先ずは食事と運動からですが、これら生活習慣改善の指導に関しては医療関係者なら誰もがその難しさを経験する一方、2型糖尿病患者数の増加傾向が一向に止まらないのもまた現実です。このような状況下で糖尿病治療に関しては今後、チーム医療スタッフとしてコメディカル役割がますます重要となってくることは間違いないと考えます。

当院では平成11年より当時としては画期的な1週間という短期の糖尿病教育入院システムを立ち上げ、珍しさもあって毎週5〜6人程度の入院患者さんがおりました。しかし教育入院の対象となるような「症状のない」患者さんでは「将来起こりうる合併症」の怖さは理解してもらえずまた、経済的貧困、介護・育児など多忙も入院拒否の理由となり、その入院患者数は年を経るごとに減少傾向となってきております。

糖尿病治療の基本が生活習慣の改善にあることから教育入院後、食事療法を厳格に行うだけでほとんどの糖尿病患者さんの血糖コントロールは安定します。これは糖尿病治療に携わる人であれば多分誰でも経験していることだと思います。私は教育入院患者さんには先ず「教育入院というよりはむしろ体験入院、特に食事の体験ですよ」とお話しします。栄養士および看護師の役割は特に重要です。その後、状態が安定したところで薬の見直しと薬の追加、服薬指導を薬剤師に行って頂き、検査値の異常等に関しても臨床検査技師により入院中に行うカンファレンスで指摘して頂くなど、我々チームとしては一人の患者さんに対し質の高い治療を行う努力をしてきたと自負しております。

しかし現在、教育入院患者さんは毎週1〜2名程度はいるもののその減少傾向がとまりません。平成26年の多摩糖尿病チーム医療研究会でも「当院における糖尿病教育入院の現状と将来への展望」というテーマで教育入院に関わる各スタッフからチームとしての役割とその評価、そして今後の改善点などを発表して頂きました。その後も各スタッフ一人ひとりの努力のおかげでチームとしてのまとまりは更に強固なものとなってきております。

厚生労働省が平成24年に発表した「国民健康・栄養調査」の推計によると糖尿病が強く疑われる者のうち、現在治療を受けている者の割合は65.2%と男女ともに増加傾向にありますが、その一方で未治療または治療中断歴のある者は男性36.1%、女性36.7%におよび、特に50歳未満の働き盛りの若年者に多いという重大な結果が示されております。糖尿病合併症は未治療では5〜10年で起き始め逆戻りはできません。またこのような未治療な若年糖尿病患者さんの未受診の理由としてはやはり、「痛みなど症状がない」や「多忙や時間的制約」などが最多でした。これらの患者さんに対し糖尿病学会は行政にも強く働きかけることで、社会に対する啓発活動を推進することが喫緊な課題であるとしております。

一方、以前に当誌にも登場した南米の寓話の中の「1匹のハチドリ」が今度は多摩地域を中心とした「多くのハチドリ」、すなわち当法人の多くのメンバーが集まって、特にこれら若い働き盛りの糖尿病患者さん一人ひとりに地道な働きかけを行うことになれば、その成果は将来きっと広く社会全体に浸透していくことになると考えます。

当院でも来年度から現行の「1週間糖尿病教育入院システム」に加え新たに、特にこのような若い働き盛りの糖尿病患者さんを対象に「週末短期糖尿病教育入院システム」の立ち上げを検討中です。ご期待ください。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 糖尿病治療薬において誤っているのはどれか、1つ選べ。

(答えは7ページにあります。)

1. グリニド薬は膵β細胞を刺激してインスリン分泌を促進する。
2. ビグアナイド薬は肝臓での糖新生を抑制する。
3. DPP4阻害薬はGLP1濃度を上昇させる。
4. SGLT2阻害薬は尿細管でのブドウ糖再吸収を抑制する。
5. α-グルコシダーゼ阻害薬は腸管でのアミノ酸の吸収速度を遅くする。



報告

西東京CDEの会 第15回例会

日時:平成28年7月30日(土)

場所:国分寺Lホール

[本法人会員] 西東京CDEの会 第15回例会総合司会 西東京中央総合病院 吉田 真由美 [看護師]

7月30日(土)に『西東京CDEの会 第15回例会』が国分寺Lホールにて開催されました。今回は「知って得する連携手帳活用術」～手帳に魂をこめて指導力アップ～というテーマのもと、105名の方が参加されました。うち当日に参加して下さったかたが5名もあり、他職種連携によるチーム医療、“連携手帳活用”という今回のテーマにふさわしく、医師、看護師、そして歯科医師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士の皆様が集まりました。

第1部は基調講演1、東京医科大学八王子医療センター准教授 大野敦先生の「糖尿病患者の内科・眼科連携」～糖尿病眼手帳・連携手帳の位置づけとCDEに期待すること～、基調講演2、こだま歯科医院院長 小玉剛先生「糖尿病と歯周病～連携の実態と対応策～」の演題にて医師、歯科医師それぞれの立場からの連携手帳活用についてご講演いただきました。

第2部はカテゴリー発表を行い、看護師・調剤薬局・理学療法士・管理栄養士の方々より、それぞれの立場における連携手帳活用術について、具体的にご講演頂きました。

第3部はモバイルdeアンサーを用い、それぞれの立場に立ったよりよい療養指導について、意見交換を行うことができました。

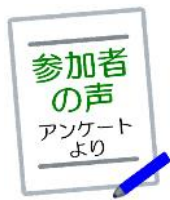
限られた時間ではございましたが、活発に意見交換ができ、参加された皆様の意見や疑問点について、会場内で共有することができました。



大野先生



小玉先生



- 😊 眼手帳についての知識がなかったので知ることが出来て良かった。
- 😊 糖尿病で眼科通院している患者は当薬局では半数ぐらい。もっと受診を薬局からも進めていきたいと思った。
- 😊 連携手帳の第3版が改訂されていたのも知らなかったのもそれを知れてよかった。眼手帳についての知識がなかったので知ることが出来て良かった。
- 😊 歯周病との関係を患者指導で重視したり、また初診の間診などで情報を把握していなかった。今後実際に情報を得ていこうと思った。
- 😊 手帳は記入だけで指導には使っていなかったので各コメディカルの活用法を知りとても勉強になった。
- 😊 歯周病と糖尿病のつながりをデータで見ることで必要性を理解できた。
- 😊 歯周病との関係を患者指導で重視したり、また初診の間診などで情報を把握していなかった。今後実際に情報を得ていこうと思った。
- 😊 普段歯科の先生のお話を伺える機会がないので大変ためになった。今後薬局でも歯科受診を勧めていきたい。

報告

第45回糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成28年7月22日(金)立川市女性総合センターアタイム
平成28年8月23日(火)ルミエール府中

[本法人会員] 本法人登録管理栄養士

小木曾内科眼科医院 香西 みち子 [管理栄養士]

『第45回糖尿病食を作って食べて学ぶ会』を7月22日立川、8月23日府中で開催し、計38名の参加がありました。今回は 夏の麺料理「麺だけで食べていませんか?」というテーマで、冷やしそうめんの変わりたれ2種と麺料理に合う副菜の冷しゃぶを中心に実習しました。レクチャーではご飯の量に対する各種麺の量を示した資料に基づき説明いたしました。参加者からは「こんなに豪華とは思わなかった」「たれ2種は人工的なたれではなく優しい味で安心して食べられる」「家では作らないたれで、勉強になった」「しゃぶしゃぶ、野菜があるので、そうめんの量がじゅうぶんであると実感できた」などの声が聞かれました。第46回は10月18日立川、11月18日府中にて既に実施しました。内容は「骨粗しょう症、気になりますか?」と題して骨を丈夫にするために必要な栄養素にポイントをおいた実習でした。第47回は来年1月27日立川、2月28日府中にて開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。



今回のメニュー

- ・冷やしそうめん変わりたれ
- ・冷しゃぶ
- ・切り干しサラダ
- ・水まんじゅう



- 😊 そうめんはめんつゆでしか食べたことがなかったのですが、つけだれがとても美味しく、野菜もたっぷりで大満足でした。
- 😊 カロリーが少なくても、とても満腹感がありました。

報告

第21回TAMA生活習慣病フォーラム

日時: 平成28年8月28日(日)
場所: 武蔵野公会堂

[本法人理事] フォーラム代表 かたやま内科クリニック 片山 隆司 [医師]

平成28年9月10日(土)に調布市文化会館たづくりにて、第21回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。テーマは「知って得する栄養学講座 ～多種医療スタッフのための食事療法最前線～」今回は、栄養学がテーマという事で3人の栄養士の先生と、私が医師の立場で講演を行いました。参加者の半数は栄養士の先生方でしたが、看護師・薬剤師の先生方も参加され、各先生方の講演を熱心に聴講しておりました。

第Ⅰ部 基調講演では、杏林大学 北原敦子先生より、認知症・サルコペニアについて、また関連する研究についても説明していただきました。そして、食品交換表を使ったバランスの良い食事の大切さをご教授いただきました。第Ⅱ部 基調講演では、西村一弘先生より、東日本大震災の事例の状況について写真を使用して紹介していただきました。そして、震災後の経過時期によって対応、心がけるべき事項について詳細に解説していただきました。第Ⅲ部 基調講演では、金子祥子先生より野菜ソムリエの立場から楽しみながら野菜を摂取する方法など、Q&A形式を取り入れながら紹介していただきました。最後の基調講演では、私より具体的な症例を提示しながら肥満者の食行動の問題点を抽出し、運動面と食事面で指導すべき点をお示しました。とくに治療のマネジメント、生活のマネジメント、感情のマネジメントの3要素について健康寿命QOL向上にむけチーム医療が重要であるとお話ししました。



金子先生

今回は栄養学がテーマだったため、食品メーカー4社(アルファフーズ、キッセイ薬品ヘルスケア事業、大塚食品、サンスター)の展示を実施しました。参加者も実際に防災食や低カロリー食を試食するなど非常に好評でありました。

終了後のアンケートにおいても、回答いただいた全員から次回も参加したいというコメントをいただいております。これまで同様の反響と共に当フォーラムへの更なる期待を実感する事ができました。

報告

第4回市民向け災害セミナー
「震災と1型糖尿病患者～そのときどう行動したか～」日時: 平成28年8月28日(日)
場所: 武蔵野公会堂

[本法人理事] 糖尿病災害対策事業 担当理事 クリニックみらい国立 宮川 高一 [医師]

去る8/28、武蔵野公会堂において第4回市民向け災害セミナーを開催いたしました。
本会に参加した当院スタッフ 看護師 深澤 よもぎの感想をご紹介します。

4月の熊本・大分地震、今夏の台風災害など、私たちの生活は地震などの災害にいつ直面してもおかしくない状況です。今回は体験者である3人の方々から、糖尿病患者さんにおける対策だけでなく、誰にでも役に立つ情報を教えて頂きました。

普段から患者さんに、災害に備えインスリンや薬の予備を持つよう伝えていますが、お話をきき、備えていても持ち出せないという意味がないと改めて感じました。緊急時に持ち出すためには、誰が見てもわかり、見つけやすいことが大切であると学びました。冷蔵庫のインスリンは透明なケースに入れて保管する、普段使用しているインスリンやSMBG・薬は派手なポーチに入れて保管するなど、今後の指導に活かしたいと思いました。

今回の地震では、キャスター付家具は揺れに強く倒れず、転倒防止対策をしていた家具は倒れたそうです。家具の配置や種類等を見直す必要があると感じました。また、安否確認や情報共有などにSNSが活用されましたが、混乱時の弱みにつけこむような誤情報の発信やリアルタイムの情報ではないなど、混乱も多かったことがわかりました。私たちは災害に対する備えだけでなく、SNSに潜む問題を考慮し、必要な情報の受け取り方や発信方法についても考えていく必要があると感じました。

報告者: 東京医科大学八王子医療センター 和田 隆	
14:30 Opening Remarks	NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 理事 宮川 高一 糖尿病災害対策事業 担当理事
14:35 東日本大震災を体験して、今思うこと	座長: 杏林大学附属病院 小林 真子 演者: 1型糖尿病患者会「たんぽぽの会」 会長 齋藤 栄子
14:55 災害時必要な道具をどうする? 一緒に考えよう! ~災害大震災を体験して~	座長: 立川相互病院 菅原 加奈美 演者: ひさ製作所主宰、工務家、料理家 橋部 比佐子
15:15 平成28年東日本震災 見えてきた災害による情報過多による混乱及び対応について	座長: 東京医科大学八王子医療センター 大野 毅 演者: キーボーディスト 株式会社サンナ 取締役 西田 聡
15:35 休憩 (10分)	
15:45 パネルディスカッション	座長: NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 理事 宮川 高一 糖尿病災害対策事業 担当理事
16:25 Closing Remarks	NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 理事長 奥田 正史

報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト第9回研修会

日時: 平成28年9月6日(火)
場所: 国分寺労政会館

[本法人評議員] 第9回研修会総合司会 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

2016年9月6日火曜日国分寺労政会館にて行われた「西東京CSII普及啓発プロジェクト第9回研修会」の報告をいたします。

当プロジェクトは①実際にポンプを手にしたがりの実技と②導入体験談を基軸に据えてきた。そして第9回研修会の目的は、今年1月に行われた意見交換会で(株)TOP社と行った際に試作のケースなどが出された。そこでは色々な問題点が挙げられ改良すべき点などが挙げられた。医療法人社団糖和会近藤医院副院長の近藤琢磨先生にCSII導入体験談をお話し頂いた。意見交換の場で多摩センタークリニックみらい院長藤井先生よりインスリンポンプ療法についてのアンケートの中間発表があった。

前半を(株)TOP社の「TAP-8200」について安部先生に講習をしていただいた。講演を聞きながら以前の問題点を改善された部分などの説明を受けた。ハードケースは落ちにくくなり、接合部分はロック機構を取り入れ引っ張られても抜けにくい構造へと改良されていた。(株)TOP社の前向きな姿勢を評価したい。

後半は医療法人社団糖和会近藤医院副院長の近藤琢磨先生に外来でのCSII導入体験談でBasalの決定をどのようにしていったのか、外来受診をどうするか、患者選択をどうするかなどを聞くことが出来た。今後CSIIが普及されるうえでの注意点などが示されたと考える。

意見交換の場ではアンケートの中間報告であった。まだ施設に偏りがあるためこれから様々な施設から回収され、最終解析結果が出てくることに期待している。この研修会はとても有意義な研修会だったと思う。

インスリンメーカーはよりユーザーフレンドリーになることを望むのであれば最初から希釈されたインスリンの発売されることを期待する。



近藤先生

報告

1型糖尿病を学ぶ会

日時：平成28年9月11日(日)
場所：北里大学

【本法人会員】 1型糖尿病を学ぶ会・事務局 クリニックみらい国立 福嶋 美春 [看護師]

1型糖尿病患者さんの「東京で1型糖尿病のイベントがしたい！」という声から始まった「T1DM MEET UP 2016 in TOKYO」。2016年9月11日(日)北里大学薬学部白金キャンパスにて開催しました。実行委員は医療スタッフだけでなく、患者自身も参加しました。1型糖尿病は発症比率が少なく、疾患の理解は不十分なため、1型糖尿病の社会的認知度を上げ、孤独な患者を減らし、患者と医療スタッフ・市民との交流を目的に企画しました。当日は300人以上の多くの方に参加していただき、にぎやかな会となりました。第1部では1型糖尿病とは？コーナーや1型糖尿病に関連したグッズ紹介・販売、療養生活に必要なもの(インスリン注射やSMBG機器、CSII機器、CGM、低血糖対応食品、TEAM DIABETES JAPAN)の紹介、1型糖尿病患者の療養生活工夫ポスター掲示、参加者同士で情報交換ができる交流広場、カーボカウントについて語り合う場といった様々な企画を実施しました。どの企画も多く参加者が立ち寄り、熱気のある第1部となりました。第2部では、1型糖尿病を題材にした映画「Answer」の上映に加え、監督や映画のモデルになった実弟・主演俳優との対談、さらには映画に出演しているバンドの生演奏もありました。1型糖尿病患者で結成された1-GATAのライブは、笑いあり涙ありの演奏内容となりました。シンポジウムでは元Jリーガー杉山新さんにも特別参加して頂き、1型糖尿病についての熱いメッセージをそれぞれの出演者より発信していただきました。1日を通し、1型糖尿病患者がその人らしく生きることを応援するようなイベントになり、イベントに参加・協力していただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



報告

かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会第7回例会

日時：平成28年9月16日(金)
場所：国分寺労政会館

【本法人評議員】 考える会代表 たもり内科クリニック 多森 芳樹 [医師]

平成28年9月16日(金)19時半から、国分寺労政会館で行いました。

今回講師におむかえたのは、当会評議員もおつとめの、八王子医療センター理学療法士、天川淑宏先生でした。“今必要なのは、運動療法の見える化～動きたくなるココロと動けるカラダ～”という題でご講演いただきました。

まずは、糖尿病患者さんが、運動療法をはじめられない・続けられない現状をご指摘いただきました。そして、糖尿病運動療法の目的は筋肉の糖の代謝をあげること、そしてその効果：運動でGLUT4が活性化されること、運動不足が慢性化した筋肉ではGLUT4が減少しブドウ糖の取り込みが少なくなることをご説明いただきました。有酸素運動・筋肉トレーニング・ストレッチについて、それぞれご解説いただきました。有酸素運動に関しましては、運動の目安を、歩数と心拍数からご提示いただきました。そして、その目安を患者さんにかいに見えるようにするか、についてご説明いただきました。筋肉トレーニングでは、スクワットの基本を教えてくださいました。また、ダイナミックフラミンゴ療法もご紹介いただきました。また、ストレッチの重要性・効果をお示しいたいただき、実際ストレッチを行い、その効果を体感いたしました。食後高血糖を防ぐために、筋肉トレーニング・ストレッチが有効なことを教えてくださいました。実際に天川先生がされておられる運動指導；スロージョグとストレッチもお示しいたいただきました。また、患者さん個々の状態に合わせた運動療法のプログラムの提示の必要性についてもふれられました。

参加者は、オブザーバーの先生方をふくめて19名でした。日頃、運動指導にご苦労されている方々のご参加で、質問も多くいただきました。動こうと思うココロを刺激すること、動けるカラダをつくり、維持することの重要性をお話しいただきました。



天川先生

報告

第17回糖尿病予防講演会

日時:平成28年9月24日(土)
場所:ルミエール府中

【本法人理事】第17回実行委員長 かたやま内科クリニック 片山 隆司【医師】

平成28年9月27日(土)にルミエール府中にて「第17回糖尿病予防講演会」が開催されました。

今回のメインテーマは「糖尿病とともに健康に生きる～Healty Living and Diabetes～」です。御存知の方も多いでしょうか、このフレーズは今年の世界糖尿病デーのスローガンでもあります。



講演1(食事療法)は野菜ソムリエで管理栄養士の篠原絵里先生に「アンチエイジングと美活をめざすヘルシー野菜生活」をテーマに、食事を楽しむコツと美しく美味しく野菜を食べるポイントをお話いただきました。講演2(運動療法)は健康運動指導士の小池日登美先生から「認知症予防といきがいづくりのためのハツラツライフ」のタイトルで、会場会員参加型でのダブルタスクによる認知症予防の実技を指導していただきました。休憩を挟んで、講演3(日常生活の心得)は看護師の杉田和枝先生に「足を守ることは人生を守ること～いつまでも自分で歩くために～」の演題で長年の指導経験を踏まえた足の自己管理法を詳細に解説していただきました。講演4(肥満予防)は、私が「肥満是正で合併症を防ぐ～健康寿命の延伸は日々の生活管理から～」のテーマで、家庭でできる食事・運動・行動修正の秘訣を披露しました。

直前に雷雨となる悪天候にもかかわらず、220名程の多くの方にご参加いただき、盛会のうちに終了となりました。



篠原先生



小池先生



杉田先生



片山先生

アンケートの結果も多くの方に大変満足とご評価をいただくことができました。

今回の講演会にご尽力いただいた多くのスタッフの方々に重ねて御礼申し上げます。



- 😊 医療従事者として、DMについて知らないことがたくさんあることに気付きました。診療補助に役立てるお話をありがとうございました。
- 😊 実践しやすい内容で、是非生活改善に取り組みたいと思います。
- 😊 ベジファーストで、野菜の作り置きと、少しでも体を動かすことが大事だと思いました。

- 😊 講演といえただ聞くだけだったが、実際に体を動かしてやったのが良かったと思います。
- 😊 演者の先生方皆さんのお話が分かりやすく楽しく引き込まれました。無理なく実践できると思います。
- 😊 野菜、肥満、運動、どのお話も実践してみようと思うことばかりでした。できることからやろうと思いました。
- 😊 糖尿病予備軍の主人に、日常生活の中での注意ポイントについて勉強してもらうことができました。今後このような機会がありましたらぜひ参加したいです。
- 😊 全ての講演が素晴らしかったです。各講師の熱意が十分伝わりました。



第37回日本肥満学会

平成28年10月7日(金)・8日(土) 東京ファッションタウン

テーマ: ビジョナリー肥満症学—基礎から臨床、そして社会へ

[本法人理事]

多摩総合医療センター

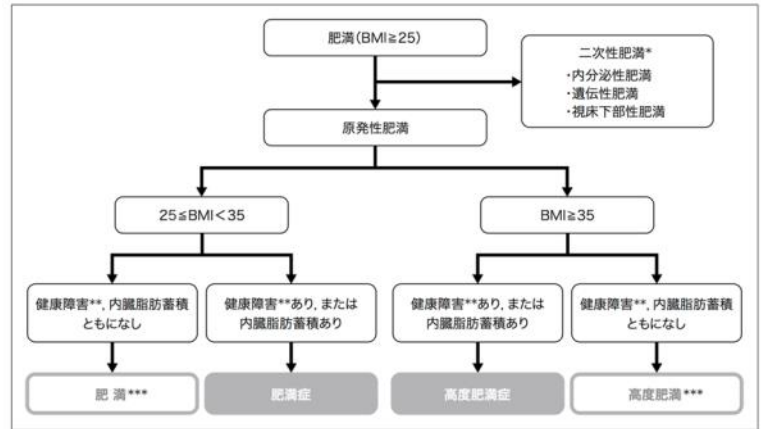
辻野 元祥 [医師]

今年度の日本肥満学会は東京医科歯科大学の小川佳宏会長の下、東京ファッションタウンビルにおいて、10月7日から8日の2日間開催されました。テーマは、「ビジョナリー肥満学～基礎から臨床、そして社会へ～」で、「将来を見据えた未来指向型の肥満症学」を旗印に、基礎および臨床の多くの演題発表がありました。今年4月に本学会から5年ぶりに改訂された「肥満症診療ガイドライン2016」が発表され、改訂のポイントについても、シンポジウムで取り上げられました。これまでも、BMI25以上が「肥満」と定義されてきましたが、肥満があり、かつそれに起因する健康障害を合併するか、内臓脂肪が過剰蓄積した場合に初めて、「肥満症」と定義され、治療を必要とする疾患単位であることが確認されました。肥満に起因する健康障害としては、耐糖能障害、脂質異常症、高血圧、非アルコール性脂肪性肝疾患、高尿酸血症、冠動脈疾患、脳梗塞、骨関節疾患、睡眠時無呼吸、月経異常、肥満関連腎臓病の11種があげられています。内臓脂肪蓄積はウエスト周囲径として、男性85cm以上、女性90cm以上であれば腹部肥満と診断、可能なかぎり腹部CT検査で内臓脂肪面積が100cm²以上であることを確認するとしています。

新しいガイドラインでは、BMI35以上を「高度肥満」、さらに上記健康障害か内臓脂肪蓄積が確認されれば「高度肥満症」とすることが規定されました。今回、新しく高度肥満症を定めたのは、肥満症とは病態も治療法も異なるためです。高度肥満の頻度は男性で0.2%、女性で0.3%程度と推定されています。治療上の減量目標として、肥満症では現体重の3%以上、高度肥満症では5-10%が示されました。肥満症の治療としては、食事療法、運動療法が基本ですが、行動療法や運動療法も考慮されます。また、高度肥満症では、さらに外科治療も検討されます。

今回、議論になったことは、薬物治療しかり、外科治療しかり、肥満症治療の意義が日本では十分に認識されていないということでした。薬物治療については、海外では複数の薬剤が認可されているにもかかわらず、日本では、マジンドールのみが認可という状況です。肥満症治療薬の評価基準案として、減量の平均値がプラセボに比して3%以上、3%以上の減量達成者が35%以上を主要評価項目にあげていく、という提案もなされました。

新ガイドラインの改訂を機に、肥満症治療の重要性について、より一層社会に発信していくことが求められているという印象を持ちました。



*常に念頭において診察する **耐糖能障害、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症、痛風、冠動脈疾患、脳梗塞、非アルコール性脂肪性肝疾患、月経異常、睡眠時無呼吸症候群、運動器疾患、肥満関連腎臓病 ***肥満、高度肥満でも減量指導は必要

図 肥満症診断のフローチャート

日本肥満学会、肥満症診療ガイドライン2016。ライフサイエンス出版、2016。

読んで
単位を
獲得しよう

答え **5**

下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 食物の消化酵素による分解過程において、炭水化物はアミラーゼという酵素によって糖が二つ結合した二糖類へと分解される。しかし、この二糖類の状態では腸から吸収できないため、ブドウ糖などの単糖類まで分解される必要がある。

二糖類から単糖類へ分解する酵素が α -グルコシダーゼであり、 α -グルコシダーゼ阻害薬は小腸粘膜上皮においてその α -グルコシダーゼ(二糖類分解酵素)の活性を競合的に阻害する。その結果、糖質の消化・吸収を遅延させて、食後の高血糖を抑制する。

その他は問題文のとおりである。

(糖尿病療養指導ガイドブック2016 P.71)

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当会ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話ください。よろしくお願いいたします。

《1月より、2017年度年会費納入が始まります》

●2017年度の年会費納入が、1月1日より可能になります。会員継続される方は、ご自身の**会員マイページ**にアクセスいただき、1月1日よりご納入をお願いします。

《お悩み 会員マイページ Q&A》

Q. 年会費や研修会参加費を支払った際、手続きの完了を知らせるメールが届きません。

A. 当法人ホームページを通じて申込みや支払いを行った際、ご登録のメールアドレスにお知らせをお送りしております。もし、届いていない場合は、会員マイページにて「お申し込み中の本法人主催セミナー」や「年会費入金状況確認」、「その他の入金履歴」より手続きが完了しているか確認してください。その上で、「会員情報の確認・変更」より、登録されているメールアドレスの記載に間違いがないかを確認してください。お間違いのない場合は、ご登録メールアドレスは、何らかの原因で当会のメールアドレスを受信できておりません。他のメールアドレスに登録変更することをお勧めします。

*** 2017年度年会費 ***

納入期間

2017年1月1日~12月31日

金額

3,000円

納入方法

会員マイページの「年会費納入のお願い」より
(※1月1日以前には表示されていません。)



研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業 ☒ 間接事業 ☐ その他
☐ 第38回東糖協多摩ブロック糖尿病教室**申込不要**

テーマ：『糖尿病患者さんの「認知症」を遅らせるコツ伝授します！』

開催日：平成28年12月10日（土）14:00~16:00

場所：イオンモール多摩平の森 3階 イオンホールA・B (JR中央線「豊田駅」北口下車 徒歩3分)

参加費：無料（どなたでも参加できます）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

詳細資料の
同封あり

☒ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第10回研修会**申込必要**

演題：『日本メドトロニック インスリンポンプ『722』の使い方』

開催日：平成29年1月17日（火）19:20~21:00

場所：国分寺労政会館 (JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分)

申込：当会ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（1/10締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

詳細資料の
同封あり

☒ 西東京CDEの会 第15回 症例検討会**申込必要**

テーマ：『在宅療養中の高齢糖尿病患者のケア』

～医療と介護のシームレスな連携を検討しようPart 3～

開催日：平成29年1月26日（木）19:00~21:00

場所：国分寺労政会館 (JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分)

参加費：当法人会員 700円 / 一般 1,000円

申込：当会ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（1/19締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



「11/14世界糖尿病デー」では色々なイベントが催されていきました。私たちのクリニックでは、世界の糖尿病事情の講演会を行い、モニター画面では糖尿病デーについての紹介をながし、胸に手造りブルーサークル(青い輪)を目立つように付けて、勤務しました。スカイタワーをブルーにしても、患者の心はブルーにしないサポートをしていきたいですね。(広報委員 岡崎 扶美恵)